

10/9 宣教70周年特別記念礼拝説教要約
ヨハネの手紙第一4章7-16節「互いに愛し合う群れ」

小池 宏明 牧師

コロナ禍が続く70周年記念の年にあって、聖書が教えるキリストの「愛」について、ヨハネの手紙からもう一度受け止めたい。

***神の先行的愛**

「愛は神から出て」いる。父なる神様は愛そのもの。主なる神様の本質が愛なのだ。(7-8節) 神様の御業の「すべて」が愛の業なので、私たちが体験する苦難や試練、病や老い、すべてが愛の本質を持っておられる父なる神様の御業なのだ。

なによりもまず、神様が私たちが愛して下さり、愛するひとり子イエス様を私たちの罪の宥めのために送ってくださることによって神様のまったきご愛が示された。ここにキリストのからだなる教会が存在していること自体が、神のご愛の表れなのだ。

***教会(兄弟姉妹)は神の愛を現わしていく**

私たちは主イエス様の深い犠牲的な愛に応え、全力で主なる神様を愛し、礼拝をささげると共に、救い出された私たちの間で、お互いに自分を犠牲にして愛し合うこと、仕え合うことが求められている。(11-12節)

***神の愛を現わすために**

「キリストこそ真の神」という告白によって神の愛が現わされる。(14-15節) 私たちが隣り人を愛するためには、救いがある、救い主が来ている、救い主こそ真の神である、とお証しすることである。その人の永遠を、左右する一大事なのだから。

そして、私たちの揺ぎ無いキリスト信仰によって神の愛が現わされる。主を愛することと、主を信じることは切り離せない。(16節)

***教会の交わりは愛を示す訓練の場**

古代教会においてキリストを頭とする交わりは、各家で行われてきた。日本でも、教会内の小グループの始まりは、家庭集会からであろう。家庭集会から始まり、性別や年代別のグループを作ったり、目的別のグループを作ったりしてきた。今後はさらに、教会外のまだ主イエス様を知らない人々を伝道するために、祈って愛の実践をしていくグループを形成していくことが必要ではないだろうか。コロナ後を見据えて、各小グループが、キリストに愛されたように、互いに愛し合い、愛する訓練を受ける場となるように、祈り求め実践する意識を持ちたい。